

その他のテーマ

ここでは、入試研究の動向に関する上記の諸テーマには含まれていない、入試業務の情報処理、昭和60年度以降の大学入試、高校側との懇談及び国家試験の4項目について、その概要を記すこととする。

入試業務の情報処理 入試成績と同様に、高校成績及び大学成績をその都度整理し、改善検討資料の短縮化を図る等の措置が講じられてきている。また、大学入試センターでは、研究部と庶務課が協力し、情報処理装置を利用する試験情報基地の建設に着手し、既に、試験情報検索組織の一環として、和文情報基地の設計を行うとともに、検索時のカナ漢字変換を開発させ、さらに視覚障害者に対する共通1次試験点字問題作成作業支援用システムに関する研究及び開発の作業を進めている。

昭和60年度以降の大学入試 これに関しては、各大学において調査研究が行われている。過去の入試に関する基礎資料や大学の学部・学科等の特性に基づく事項等に基づいて調査研究がな

され、昭和58年度までには、いくつかの大学において具体的審議に基づく成案が得られている。

高校側との懇談 昭和47年度以来、継続実施されているもので、昭和58年度は、従来の第2次試験問題に関する科目ごとの分科会に加えて、県内の公立高校における新教育課程に基づく授業等の具体的な実施状況を高校側から報告を受け、これに対する質疑応答を行った。この措置は昭和60年度以降の大学入試方法の検討資料を得るために行われたものである。

国家試験 ある大学で、薬剤師国家試験の合格者と不合格者の各種成績の比較が行われた。これは、昭和58年度に不合格者が倍増したために、その原因を探る目的でなされたものである。調査結果から、共通1次試験及び第2次試験の成績は、合格者群と不合格者群に差は認められないこと、高校・大学教養課程で英語の成績がやや劣る者は、専門教育科目の成績が徐々に低下することが明らかにされている。